海外駐在員現地レポート・上海事務所（2022 年６月）

報告者　日中経済協会上海事務所 北海道経済交流室長　早田 武志

（件名）都市封鎖終了後の上海市における感染拡大抑制の取組

上海市の新型コロナウイルス感染に伴うロックダウン（都市封鎖）は 6 月 1 日に終了し、経済活動は段階的に正常化が進んでおります。一方、感染拡大の抑制に向けた新たに取組が強化されています。

今回は、その現状と展望について報告します。

１．経済活動の正常化に向けた動き

（１）飲食店の店内営業の再開（６月 29 日～）

上海では、ロックダウンの終了後も飲食店での店内飲食は禁止されたままであり、テイクアウト及び宅配サービスのみが認められておりましたが、6 月 29 日、待ちに待った店内飲食が正式に再開しました。

飲食店での飲食は、街中での市民の消費活動の核であり、ショッピングモールや商店街全体の集客や滞在時間にも重大な影響があることを、この１ヶ月間、改めて感じました。

また店内飲食の有無は、飲食店の経営にも深刻な影響を及ぼします。北海道料理を提供する居酒屋「ふる郷」のオーナーからは、「ロックダウンが終了したのは良かったが、当店は居酒屋の業態であるため、テイクアウトと宅配だけでは売上の確保が難しく、非常に苦しかった。店内飲食が再開したこれからが本番。」と伺いました。

一方、繁華街沿いのカフェや軽食店などでは、テイクアウト用セットをこぞって販売し、これを購入した来客が周辺の歩道や広場などで密集して食事を楽しむ風景なども数多く見られ、感染拡大抑制策としての効果に疑問を感じることもありました。

市民の消費生活の観点からは、飲食店の店内営業の再開こそが、本当のロックダウン終了と言えるかも知れません。

北海道料理「ふる郷」

（２）入国時の隔離期間の短縮（６月 30 日～）

国外から中国への入国者の隔離等の行動制限については、これまで、2 週間の指定施設隔離と 1 週間の在宅健康観察（原則外出禁止）を基本ルールとして、地方政府の裁量により更に 1～2 週間の在宅健康観察等が追加設定されており、合計すると入国後３～５週間の行動制限期間が必要となっていました（上海市については基本ルールどおりで合計 3 週間）。

中国政府は、これを大きく改め、6 月 30 日以降の入国者に対する行動制限について、7 日間の指定施設隔離及び 3 日間の在宅健康観察、合計 10 日間へ大幅に短縮しました。また、地方政府の裁量による追加措置も禁止しました。

現状では、依然として中国から海外への団体旅行の募集が停止しているため、訪日観光が再開する見通しは立っておりませんが、ビジネス上の往来については、今後活発化が予想されます。

２．感染拡大抑制に向けた新たな取組

（１）ＰＣＲ検査の定期的受検の義務化

６月１日から、都市封鎖の終了と合わせて、公共施設、店舗、マンション、オフィスビル、公園など、自宅を含めたあらゆる場所への入場や交通機関の利用の際、検査後 72 時間以内の PCR 検査陰性の結果の提示が必須となりました。サンプル採取から検査結果が出るまでのタイムラグがあるため、自由な活動のためには、実質的に 2 日に 1 回の受検が必要な状況です。

さらに、6 月 11 日からは、市民は、たとえ公共施設等を利用しない場合でも、少なくとも週に 1 回は PCR 検査を行うことが義務付けられました。

（２）まちかどＰＣＲ検査場の設置

この規制ルールを担保するため、上海市では、徒歩 15 分圏に 1 つ以上を基本として、歩道や公園などに約 15,000 カ所の臨時の PCR 検査場を設置しました。７月末までは検査料無料です。大半の検査場は、日中のみの営業です

ＰＣＲ検査場の一例

が、一定のエリア毎に 24 時間体制の検査場も配置されています。また、営業状況や混雑状況がスマートフォンのアプリで常時公開されています。

運用スタート当初は、一部の検査場に市民が集中し数時間の行列が発生したり、検査結果がスマートフォンに通知されるまで 1 日半を要し、外出が困難になる等の混乱が見られましたが、状況は数日間で速やかに改善し、現在では、行列は 0～10 分程度、検査後 10 時間後には検査結果が通知されるなど、利便性は大幅に向上しました。2 日に 1 回の PCR 検査は、すでに市民の生活習慣の一部となっております。

（３）「健康コード」の改良と「場所コード」の導入

2020 年の感染拡大の当初より、中国では各地方政府が「健康コード*」を導入し、個人の感染リスクを迅速に識別するためのツールとして幅広く利用されておりますが、6 月 1 日以降、上海市が運用する健康コードには、PCR 検査の受検履歴と結果が表示されるよう機能が追加されました。

＊「健康コード」とは、PCR 検査結果や移動履歴などを基に、個人の感染リスクを三色に区分された QR コードで表示するアプリです。異常無しであれば緑色、異常がある場合は原因に応じて黄色または赤色に変化します。

また同時に、公共施設や店舗、マンション、駅など、市内のあらゆる場所に、「場所コード」という固有の QR コードが設定され、入口に掲示されることとなりました。場所コードを個人のスマートフォンでスキャンすると、本人の健康コード上に、①リスクに応じて色分けされた QR コード、②直近の PCR 検査からの時間と結果、③その場所の名称が一覧で表示されますので、その場所の係員や店員に画面を提示することで入場が可能となります。チェック項目は、①QR コードが緑色、②72 時間以内 PCR 陰性、③場所表示済みの 3 点です。

健康コードの提示自体は、2020 年から中国全土でほぼ確立されたルールとなっておりますが、今回の改良により、PCR 検査実施からの時間とその結果が同画面で確認できるようになったことに加えて、場所コードを入場者全員にスキャンさせることによって、万一その場所で感染者が発生した場合に、入場履歴に基づき、すみやかに濃厚接触者等を特定する能力が強化されました。

場所コードの一例
（入場者がスマホでスキャン）

←氏名
←現在の日時
←三色のコード（緑：異常無し）
←場所の名称（直前にスキャンした場所）
←直近のＰＣＲ検査からの時間と結果

健康コード
（場所コードのスキャン後）

←氏名
←検査実施日時
←検査実施機関
←結果判明日時
←検査項目：ＰＣＲ
←結果【陰性】

ＰＣＲ検査結果の詳細
（左の写真の➡ をタップすると表示される）

３．展望

上海市内では、上述した飲食店の店内営業再開や入国時の隔離期間の短縮の他、上海市から市外への移動条件についても、感染リスクの低いエリアからであれば原則自由となるなど、経済活動の再活発化に向け、基本的に規制を緩和する方向で推移しています。

また、新たな感染拡大抑制策の効果もあり、6 月中の市中感染者数は少ない時は 1 日 0 人、多くても数十人程度に留まりました。

一方、市中感染者が 1 人でも発生した場合は、その都度、該当エリアの封鎖や、全員 PCR 検査などの対策が引き続き徹底されており、感染が大きく拡大した場合には再び都市封鎖に近い事態が起こりうると懸念する市民も多いようです。

今後も感染状況に応じて、ブレーキとアクセルを細かく使い分けた複雑な政策運営が続くと予想されますが、道産品の販路拡大など北海道としての活動目標をふまえ、引き続き情勢を注視してまいります。